慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	甕型土器(口繪説明)
Sub Title	
Author	柴田, 常惠(Shibata, Joe)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.16, No.4 (1938. 4) ,p.30(528)- 30(528)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19380400-0030

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

甕型土器（口繪說明）

世田谷區玉川等々力町なるゴルフ場の地均し工事に際し數年前に發掘された土器で、最近考古學研究資料として本學會の藏品に歸したものである。

口緣廣くして底面は甚だ小く割合に其丈け高く全體漏斗形を呈し、高さ五八糎・口徑四〇糎・底徑・九糎で腹部は底面より高さ五二糎の所に於て最も廣く張り居り其徑五二糎ある。底面には網代若くは木葉の痕を存せずして素文を呈し、口緣また素文なれど腹部には一帶に並列せし繩文を斜に附し居るが、其上部の一段とは斜線の方向を反對に造れるより羽狀文の狀態を示して居る。土質は細砂を混ずること割合に多く、燒成の度は割合に低きものゝ如く、左程に堅緻ではなく赭色を呈する部分もあれど黝黑色をも呈する。繩文式土器には相當に大型のもの存することは遺存する破片などにより既に知らる所なるが、左りとて斯く大型にして完形なるは極めて稀なるが、此土器は僅に一部に龜裂を見るのみで缺損する所がない。形式並に文樣等の上より見れば此種の土器としては比較的後期に置くべきものなれど、大型なる關係より製作に導かれた點を考慮すべき點があり、燒成の工合など特に然るを覺え、やがて當時の窯の構造も推察すべきものがある。尙ほ此土器の埋藏狀態に就ては既に數年前の事に屬するから今は明確を期し難いが、稍〻横に仆れ居りしと云はれ、若も夫れが事實なりとせば合甕式の甕棺の一方かとも考へられざるにあらず。土器の破片は多數に其際發掘せしも完形ならざるを以て保存さるゝに到らざりしと云はる。此土器が甕棺なりしとするも最初より埋藏の爲に造りしものにあらず、偶〻之れに應用されし程度で容器として製作されしものと思はれ、水若くは酒の類を入れしことあるべきが、浸透性に富む燒物とて之れよりも穀物の貯藏を考ふべきである。

（柴田常惠）